

がんの名医

51

を受けた人の3%程度である。

大腸がん②

大腸がんの死亡者数は2010年が4万4238人、06年の罹患（りか）者数が10万7815人、今日では11万人を超え、ほぼ胃がんの罹患者数11万6911人と並んでいると思われる。罹患率に対する死亡者の比率は約40%で、肺がんの約80%と比べると、治る可能性がかなり期待できるがんといえる。だからこそ、しっかりと検査を受けるべきなのである。

「大腸がんの症状はがんが大きくなるにつれて『便通異常』『出血（血

★大腸がん（内視鏡治療）の名医★

▽がん研有明病院（東京都江東区）内視鏡診療部
五十嵐正広部長

▽国立がん研究センター中央病院（東京都中央区）内視鏡科・内視鏡センター
齋藤豊科長・センター長

1長

▽藤井隆広クリニック（東京都中央区）藤井隆広院長

便』『腹痛』などがあ
ります」と話すのは慶応

義塾大学医学部（東京都新宿区）腫瘍センターの浦岡俊夫講師。そして続

ける。「ただし、早期がんでは症状は出ません。症状が出てからでは内視鏡治療は無理なので、症状がなくても『便潜血検査』を受けるのが大事です」。

◎便潜血検査

大腸がん検診では必ず行われるスクリーニング検査。便の中の血液の反応の有無によって消化管の出血を調べる。採取して提出する便には1回の採取の「1日法」と2日間連続して採取して提出する「2日法」がある。

便に血液反応があ
って陽性と判定

された場合は精密検査と
なる。痔（じ）、大腸ポ

リープなどのほかにも疾
患は数多く、大腸がんと
診断がつく人は精密検査

◎大腸内視鏡検査

この検査は大腸を空の状態にした後、肛門から内視鏡を挿入し、大腸の中を直接観察する検査で、鎮静剤を使って行う施設が多い。

大腸内視鏡を行って「異常なし」とされると、これで大腸内視鏡をしばらく受けない人が意外に多い。が、それは決して正しくはない。

「検査で見逃しがないとも限りません。異常なしでも翌年続けて受け、2回続けて異常がなければ、次は3年後が良いでしょう。ポリープがあった人は、私たちはきれいに取るようにしていますので、翌年ポリープがなければ、この場合も次は3年後で良いでしょう。ただし、便潜血検査は毎年受けてください。そこで陽性の場合、これは大腸内視鏡検査を受けることになります」

40歳以上の人は、すで
にがん年齢であることを
肝に銘じ、早期発見に向
かうべきである。